

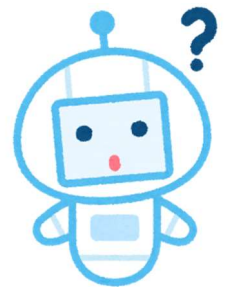
本校では、令和5年度より群馬県教育委員会から『SAH (Student Agency High School)』の指定を受け、『自ら考え、判断し、行動できる生徒』の育成を目指しています。『予測困難な時代』のなかで『生きる力』を育むため、『認知能力』に加え、『非認知能力』の育成に取り組んでいます。

*Agency…自分の人生および周りの世界に対して、よい方向に影響を与える能力や意思を持つこと

★「非認知能力」とは？ (ベネッセ教育情報サイト <https://benesse.jp/kosodate/202011/20201114-3.html>)

「目標を掲げ、モチベーション高く、自分をコントロールしながら粘り強く、仲間と共に取り組むための姿勢や各種の力」とも言え、近年の調査や研究で、認知能力以上に子どもの将来や人生の成功、

豊かさにつながる事が明らかになっています。非認知能力は、感情や心の能力のため、集中力や忍耐力、コミュニケーション力など様々な力が含まれますが、主に次の4つに分類できます。



- ① **自分を信じる自己効力感・自己肯定感** 自分の存在を大切に思って、自身の能力を信じ、自分ならきっとできると思うこと。それができれば、難しい課題に直面した際や、なかなかうまくいかない際にもやり遂げることができます。チャレンジを続け、やり抜く力を発揮するには、自己肯定感、自己効力感という土台が必要です。
- ② **意欲を高く集中して取り組む夢中力** 自分で自分を動機づけて、集中して取り組む力があれば、夢中になって試行錯誤を積み重ねることができます。自分で自分をモチベートして没頭できる姿勢は、どんな状況でも役に立つ一生モノの力となるものです。
- ③ **自分の気持ちをコントロールする自制力や忍耐力** 物事にしっかり取り組んで、成果を出せる人は、自分の感情コントロールや気持ちの切り替えが上手なものです。辛かったり、しんどかったりする時も、その感情に流されては良い結果は得られません。前向きに気持ちを切り替える。粘り強くあきらめずに取り組む。きっとできるはずとある種の楽さも発揮する。このような自制力や忍耐力があれば、問題解決までしっかりやり遂げることができます。
- ④ **他者と協力できる社会的能力やコミュニケーション力** 協調性やリーダーシップ、コミュニケーション力。これらの力があれば、1人では解決できないような課題にも、チームワークを発揮して取り組み、良い成果をあげることができるでしょう。



「非認知能力」というものを少しはイメージできたでしょうか？「非認知能力」と言われると、ピンとこなかったり、「ん？」と疑問符がつく人もいるかもしれません。しかし、上述した①～④の「力」を見ると昔から、ずっと必要な、大事な力と言われてきたものであることがわかりますね。つまり、知識をただ覚えるだけでなく、それを使いこなせるようになる、社会や研究に応用できる実践力、社会で生きる力までを育成しようということです。前南生諸君は、高校生活の中で自身の「非認知能力を高める」ことを意識して生活すれば、おのずと社会で生き抜く力が身に付いていきます。まずは、“意識”して。(教頭 長岡将之)。

★校長より★将来、皆さんが活躍する時代はAIなどの高度なテクノロジーが社会や生活に取り入れられていると考えられています。このとき人の果たす役割として求められるのが、新たな目標や夢を創り出したり、意欲を持ってその目標に向かったり、他者の気持ちを思いやっかかわったりすることになります。この役割は人の感情が関わることです。そこで必要と考えられているのが非認知能力です。「自ら考え、判断し、行動する」は上の①～④の力を自然と使うこととなりますので、非認知能力の育成に繋がります。普段の学校生活の中で「自ら考え、判断し、行動する」を意識し、挑戦してみてください。校長 原 拓史